
バカとイメージと先導者

ベガF91

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとイメージと先導者

【Nコード】

N7506Y

【作者名】

ベガF91

【あらすじ】

PSYクオリアの力でアイチが導かれた世界はバカテスの世界であつた。そこで明久と雄二とともに文月学園の学園生活を送ることになる。カードファイト！！ヴァンガードとバカとテストと召喚獣のクロスです。

プロローグ（前書き）

長らくお待たせしました。

予告通りヴァンガードとバカテスのクロスの始まりです。

プロローグ

ヴァンガードファイター、先導アイチはデッキを眺めていた。自分の愛用のロイヤルパラディン。

その時、また幻想を見ることとなる。

「うう……」

目の前にはクレイの世界があった。そして、そこにはアイチの見たこともない世界があった。

（なんだろう……あれ）

その瞬間、光がアイチを包む。

場所は変わって、『文月学園』。保健室のベッドに横たわったアイチは意識を取り戻して目を覚ます。

「こ、ここは……？」

「目覚めたか」

「えっと、あなたは？」

「私は西村宗一。この文月学園の教師だ」

アイチに話しかけているのは文月学園の教師で生活指導の鬼と恐れられ、生徒から鉄人と言われている西村宗一である。

「文月学園……？」

文月学園なんて聞いたことがないアイチは不思議そうな顔をした。そして鉄人に自分の通っている学校を聞いてみることに。

「あの、後江中学校ってご存知ですか？」

「後江中学？ 聞いたことがないな」

「えっ！？」

鉄人の言葉にショックを受けてしまうアイチ。深く考え込んだ結果。

「もしかして、パラレルワールド……？」

以前にもカムイが読んでいた漫画のことを思い出す。それはパラレルワールドが舞台となっている世界だった。

そして、今自分が平行世界、パラレルワールドに来てしまったことを理解した。

「なに？」

鉄人に学園長室に連れてこられ、アイチは文月学園学園長である藤堂カヲルと会う。

「あんたが客人ね。私は藤堂カヲルだ、あんたの名前は？」

「先導アイチです」

「それじゃあ、先導。あんたのことを話してくれるかい？」

「はい」

アイチは自分の世界のことと今大人気のカードゲーム、ヴァンガードのことを話した。今自分が知っているのはこれしかないのである。

「なるほどね。先導、ひとつ提案あるんだが」

「なんですか？」

カヲルの言葉に息をのむアイチ。

「この文月学園に学生として通ってみないか？」

「僕が……ですか？」

カヲルの言葉に少し不安を感じる。

「嫌なのかい？」

「いえ、僕はまだ中学生ですし」

その言葉にカヲルはふっと笑う。

「別に気にすることないよ。あんたは異世界から来た客人だし。それに行くあてはあるのかい？」

「それは……………」

カヲルの言葉に黙ってしまう。確かに、異世界に来てしまった以上、どこに行けばいいのかわからない。

ここはカヲルの言うとおりにするしかなかった。

「それじゃあ、明日文月学園の編入試験を行うよ。今日は文月学園に泊まって勉強をしたらどうだい？」

「じゃあ、お言葉に甘えて……………」

まだ不安気味なアイチ。すると、鉄人はドアの方へと向かっていった。

「そんなところで何をしている！」

「うわ！」

「ぐお！」

バタッ

鉄人はドアを勢い良く開けて、そこから茶髪に少し女性に見える顔立ちをした少年吉井明久と赤髪に背が高く逞しい体を持つ少年坂本雄二が倒れこんだ。

それを見たアイチもびっくりする。

「な、なに……?」

「この学園のバカどもだよ」

「貴様ら、どこまで聞いていた」

「えっと……」

「全部だ」

鉄人に星座をさせられ、すんなり答える雄二。

「まったくお前らは……」

「あの、これは僕の問題ですし、この2人を責めないでください!」

アイチは2人をフォローした。

「……わかった、もう立っていい」

鉄人の許可を得て、明久と雄二は立ち上がる。

「ありがとう! えっと……先導君だっけ?」

「アイチでいいよ。それと君たちの名前は……」

「僕は吉井明久。よろしくね、アイチ」

「俺は坂本雄二だ。よろしくな、アイチ」

「こちらこそ、明久君、雄二君」

3人は握手を交わす。すると、アイチは鉄人にこんなことを聞いた。

「西村先生、この2人のクラスはどこなんですか？」

「なぜそんなことを聞くんだ？」

「その……、この2人と同じクラスがいいなと思っただけです」

「「え!?!」」

その言葉に鉄人はアイチに聞く。

「どうしてだ？」

「彼らに僕の秘密を知られてしまいましたし、同じクラスの方がいいと思った上です」

「そうか。しかし、こいつらのクラスはFクラスだぞ」

アイチはそのFクラスのことを鉄人に聞いてみた。

「Fクラスってどんなクラスなんですか？」

「この文月学園は一年生の最後に振り分け試験と言うものを行い、成績別にクラスを振り分けるんだ。成績が優秀な生徒はAクラス。そして、学園最低のバカの生徒達の集まりがFクラスだ。本当にFクラスでいいのか？」

それでもアイチの考えは変わらなかった。

「大丈夫です」

「わかった。吉井！ 坂本！」

「「は、はい!？」」

「先導の面倒はお前達が責任を持って見ろ、いいな!？」

「「イエッサー、鉄人!」」

「それと何度も言うが、西村だ!」

明久と雄二が鉄人に敬礼する姿を見たアイチは少し不安そうな目で見ていた。

（大丈夫かな、僕……）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7506y/>

バカとイメージと先導者

2011年11月22日15時23分発行